

由來とか、富士茄子の發見とかが記されているし、宗珠の語も散見している。これらは宗珠在世中としてはやや不當の感がないでもない。しかし分類草人木の原書の成立を永祿七年ではないともいいきれぬものである。

この珠光茶祕書は、その成立などをはじめ、茶書として種々の問題を提起することであろう。宗珠の傳を綴るとともに、新資料をあわせ紹介し、諸賢の御叱正を請う次第である。ここに終始、本稿の作成について誘掖を賜わった森川勘一郎翁に謝意を表して擱筆する。

圖版要項

一 海住山寺五重塔内陣上部裝飾畫 (原色版)

京都 海住山寺

二 同 内陣裝飾畫 全景 同

三 同 内陣扉繪 梵天舍利弗 部分 同

一一三 福山敏男「海住山五重塔」参照

四 北魏金銅五尊佛立像 米國 メトロポリタン美術館藏

總高 五九糎

五 東魏天平四年銘釋迦三尊像

總高 七七糎

米國 クリーヴランド美術館藏

四・五 松原三郎「東魏彫刻論

—その特性とわが飛鳥止利様式との關係—」参照

彙報

高田研究員渡印

當研究所美術部研究員高田修はインド佛蹟踏査團の一員として昭和三十三年十一月二十九日東京を出發し、インドへ赴いた。